

電柱蘇生計画ーモス・ユニフォームとヒカリノハシラー

日本中に存在する電柱の表面を空き地とし、電柱の緑化、太陽光発電を用いての電灯化を提案する。これによって、緑と光のあふれる街を増やし、防犯性、景観の向上をはかる。

[きっかけ]

家に帰るまでに、何本の電柱があるだろうか。

数えたことは、あるだろうか。

街中に林立する電柱は、灰色の肌をむき出しにしたまま、或いは、落書きや張り紙をされたまま、立ち尽くしている。

洒落ていく街にも、人にも、置き去りにされたような姿は、あまりに切ない。

その感情は、ほったらかしにされている空き地を見て抱くものと、同じだった。

私は、道路や店、人々がきれいになっていくにもかかわらず、そして誰もが目にしているにもかかわらず、一向に変わらないその姿を、変化させようと考えた。

私は、電柱に空き地を見出した。

[問題提起]

電柱の規格は様々で小さいものでは元口径 233mm—高さ 7 m、大きいものは元口径 453mm—高さ 16m のものがある。そして日本には 2014 年の時点で、33,370,147 本もの電柱が存在する。

円周 1m、高さ 10mを平均とし、33,370,147 本をかけて表面積を計算すると、433,811,911 m² となる。

つまり日本中には、4 億m²以上の、直立する空き地が存在するのだ。

電柱の地下埋設化は進んではいるが、それは限られた地域でしか行われていないのが現状だ。住宅地や郊外など、着手されていない地域のほうが多いのである。

しかもその空き地の大半は現在、若者たちの落書きの場、張り紙の場、吐瀉物、ペットのマーキング場となっている。

日本の電柱が抱える問題の第一は、数の多さだ。そして大きさ。

そしてその多さ、大きさゆえに、なかなか手を付けられないでいるということだ。

誰もの身近にありながらも、誰も見ようとしていない。常に目に入っているからこそ、景色から排除する。そして、ぶつかったり、写真に写りこんだりした時に、「邪魔だ」とつぶやくのだ。道路の端に立ち並ぶ電柱群は、私の眼には都市の亡霊に見えた。

死んだ林に見えたのだ。

もうひとつ、電柱を見て、不思議に思ったことがある。

それは、電灯のない道にも、電柱はたくさんあるということだ。夜、灯りのない真っ暗な道を帰る人は少なくないだろう。

私自身、一人で夜道を歩く際、遠回りでも電灯のある道を選んで歩く。近年、児童や若者が悪質かつ残虐な事件に巻き込まれるという報道を耳にすることが多い。電灯がないことを、不安に思う人は多いはずである。

しかし、夜道は暗いままなのである。家々からもれる明かりでようやく、電柱がぼんやり浮かび上がるくらいだ。



[考察]

住宅地や郊外など、電柱が数多く残る地域での、電柱の有効利用を考えたい。

暗い夜道には灯りを、緑の不足する場所には緑を、電柱を利用し増やすことができないだろうか。

もし、電柱が緑豊かな木のようにになったら。夜道に光る無数の柱になったら。いままでの日常の景色は、一変するのではないだろうか。

[提案]

①電柱の表面に苔を生やし緑化させる……【モス・ユニフォーム】

②電柱一つ一つを光らせ電灯化する ……【ヒカリノハシラー】

①【モス・ユニフォーム】

電柱の表面を緑化させるには、大きな問題がある。それは電柱がコンクリート製であるということだ。コンクリートに植物は根を張ることができない。さらに、落葉等の管理問題がある。

しかしながら苔は、深く根を張る必要も、落葉もない。苔の中でも砂苔というものは、コンクリート上でも育ち、降雨により水分を十分に吸収できるため、水やりの必要がほとんどない。また、苔には空気清浄効果があるといわれているため、街全体の空気を浄化することができる。つまり電柱(図1)一面もしくは一部に苔を生やすことによって、緑化させるということだ。

②【ヒカリノハシラー】

電柱の上部にフィルム状の太陽光パネルを設置し、昼間に発電した電力で、下部から中部に取り付けた LED ライトを発光させる(図1)。

住宅街等の電柱の上部は、建物にさえぎられることも少なく、太陽光のみで十分に発電することができる。

電灯という概念をなくし、電柱そのものを光らせることによって、電柱は夜道を照らす大きな灯となる。

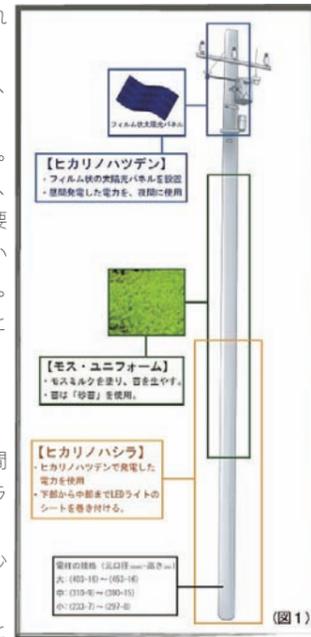
★【緑の不足しやすい道路周辺などの電柱には①を、住宅地や、電灯のない道に立つ電柱には②を、多く適用させることによって、その地域に応じた電柱にする。】

★【地域興し企画】【モスパインティングーぼくのわたしのモスアート!ー】

地域の子供達とともに、電柱を緑化させる企画。

それぞれ、思い思いの絵や形を、苔を使って電柱に描くというもの。

モスマルクという苔が生える絵具のようなものを使いペイントすることにより、苔を生やす。(図2)



【モスマルクのつくりかた・塗り方】

材料：・苔《ひとにぎり》 ☆ヨーグルト《2カップ》

☆水《2カップ》 ☆砂糖《小さじ1/2》

(1)苔を採取し、土を取り除く。

(2)ブレンダーに(1)の苔、☆の材料を入れ、混ぜる。

(3)液状になったら刷毛にとり、電柱に塗る。



通路路などの電柱で行えば、子供達一人一人の「自分の電柱」が出来上がり、日々成長していく苔を、緑を楽しむことができる。

[提案による効果]

電柱を緑化させることにより、街は緑であふれるだろう。

また、落書きや、張り紙をすることも困難となるため、景観の回復が期待できる。

そして電柱そのものを光らせることにより、真っ暗な夜道は存在しなくなる。

帰り道、無数の光の柱たちが、家へと導いてくれるのだ。

苔と自然のエネルギーを活用し、日本全体のマイナスイオンと防犯性の向上が期待できる。そしてそれは、幻想的で、美しい景色だと思う。

色も存在感も灰のようであった電柱が、命ある緑に輝くのである。

[まとめ]

「空き地」とは、「求められなくなった場所」だと思う。

いつも通り過ぎてしまう場所やものは、自分自身が無意識に不必要と判断し、「見えなく」なってしまったものたちだ。

空き地は、そういった「見えなくなってしまった」ものだと思う。

しかし、とある子供たちは遊び場を求めて草だらけの「空き地」を見つけた。

土管のころがる広々とした、リサイクルをするのうってつけの、思いふけるのうってつけの、メンコをやるのに、駆け回るのに、うってつけの場所を。

そしてそこを望み通りに「遊び場」へと変化させた。

「空き地」は見つけられ、もう「空き地」でなくなった。

多くの人の視界から欠け落ちてしまったものが、生き返り、「見える」ようになる。

私はそのような復活を、電柱に願うのだ。

切なくなったあの気持ちごと、変化させたい。電柱が街を活性化する。新たな役割を電柱に与え、立ち並ぶ空き地を緑あふれる光の柱へと変化させたい。

電柱を眺めて、道行く人が「きれいだね」とつぶやく世界が見たいのだ。

そして、毎日のように、穏やかなモスグリーンが目に入り、微笑んでいきたいのだ。

暗い帰り道を、寂しく歩く人が、一人もいないような世界を、強く望んでいるのだ。